■(清原)ラグーザ玉　　日本初の女流洋画家。イタリア人彫刻家ラグーザと結婚，パレルモで転変，夫の死後，帰国し脚光。
らぐうざたま
遣欧使節・・1861＝　　東京の芝新堀で，増上寺の行事を取り仕切る差配の清原定吉の次女に生まれる。母は兼。幼名たと。

裕福な家で，男児を期待されていたことから，男の子のように育てられ，

大政奉還・・1867＝ 6歳：_家の向かいで薩摩屋敷焼打ち事件が起こるも動ぜず眺める一方，絵を描き始める。
明治維新・・1868＝ 7歳：
維新後，父は広い敷地を利用して花圃を営むようになり，
初の日刊新聞1870＝ 9歳：

学問のすすめ1872＝11歳：２つ上の姉千代とともに，龍和小学校に入学。_小林永洲という画家に師事，
明治6年政変 1873＝12歳：たちまち"永寿"という_画号を貰うほどの腕前になる。

西南戦争・・1877＝16歳：_縁側で絵を描いているところを，通りがかった工部美術学校教授に招聘されていたイタリア人彫刻家ビンチェンツォ=ラグーザの目に止まり，以後，しばしば立寄る20年上のラグーザから教育を受けるうち，
大久保暗殺・1878＝17歳：_ラグーザの手で玉をモデルに最初の日本人娘像が生み出され，玉はラグーザ=コレクションの写生開始，
沖縄県編入・1879＝18歳：
・・・・・・1880＝19歳：大鳥圭介を仲人に_結婚するに至り，
明治14年政変1881＝20歳：ラグーザ=コレクションの写生を完成後，
新体詩抄・・1882＝21歳：_故郷に最先端の工芸学校を創ることを夢見る夫に従い，姉千代夫婦とともにシチリアのパレルモに移住。日本人初のヨーロッパの大学への留学生として，パレルモ大学美術専攻科に通い，
岩倉具視没・1883＝22歳：早くも，_その腕前が現地の新聞で絶賛される。
秩父事件・・1884＝23歳：*夫と私立パレルモ工芸学校を創設し，女子部長となる。千代夫婦が日本美術科で刺繍や漆芸を教授する。
父定吉が娘の国籍喪失を懸念して戸籍を送らなかったため，入籍できず，
国民之友始・1887＝26歳：_イタリア政府公認の公立学校，さらに高等美術学校に昇格，副校長となり，
初の対等条約1888＝27歳：学校美術展に油彩画と刺繍出品し一等賞，
帝国憲法発布1889＝28歳：南イタリア美術展に入選。_姉婿の担当する漆芸の存廃を巡ってトラブル，千代夫婦は帰国してしまう。夫に従い現地に止まることを決意，受洗してエレオノラ・ラグーザとなり，
大本教・・・1892＝31歳：*全イタリア大博覧会で「小鳥」が金賞など，画家として確固たる地位を築くが，
郡司千島探検1893＝32歳：_夫のラグーザは畢生の大作「ガリバルディ騎馬像」完成後，老境に入り，
日清戦争始・1894＝33歳：流産して以後，子供はできず，

八幡製鉄始・1897＝36歳：
_学校は経済的に行詰まると，長い校内争いの末，

Bushidou・・1899＝38歳：_夫ラグーザが負債を負わされた上，校長のポストを失ったため，自らは社交界で奮闘，

田中正造直訴1901＝40歳：_最も贅沢な館とされたカルーソー邸舞踏室の天井画の仕事が舞い込むと，
_一世一代の大仕事と，鬼気せまる勢いで取り組み，
日比谷公園・1903＝42歳：_天井画「楽園の曙」を完成させ，市民に衝撃を与えた。
日露戦争始・1904＝43歳：_ようやく入籍し，婚礼の宴。以後，南部イタリアの男社会で抑圧されていた女性が弟子入りし始め，
日露戦争終・1905＝44歳：
満鉄発足・・1906＝45歳：

ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝47歳：夫ラグーザの日本での再就職を実家に依頼するなどするうち，

韓国併合・・1910＝49歳：_ニューヨーク国際美術展とベネチアビエンナーレの婦人部門で日本女性初の最優秀賞を獲得すると，
_パレルモの上流社会の少女たちの間で，玉に絵を習うことが先端の証のようになり，以後，教育に専念。
明治天皇没・1912＝51歳：

第一次大戦始1914＝53歳：_夫ラグーザが視力を失い，日本への渡航を断念。
21ヶ条要求・1915＝54歳：
民本主義・・1916＝55歳：父定吉が死去。
ロシア革命・1917＝56歳：母が死去するも，姉が落胆するのを怖れて報せず，

_次第に社交界から遠のき，夫を献身的に介護する隠居生活を送るようになって行く。

原敬首相暗殺1921＝60歳：姉千代が死去するも知らず，
水平社結成・1922＝61歳：甥の清原繁次郎からの報せで，母と姉の死を知る。

護憲三派圧勝1924＝63歳：

金融恐慌・・1927＝66歳：_夫ラグーザが死去。日本大使館からも冷たくあしらわれて，孤独にうちひしがれるなか，，

_イタリア取材旅行中に玉の絵を見た木村毅の依頼で，
海軍軍縮条約1930＝69歳：_東京日日新聞特派員小野七郎が取材に訪れる。
満州事変・・1931＝70歳：_親友となるエリーザと出会って孤独が癒される一方，連載実話小説「ラグーザお玉」によって日本にその名が知られて，少女時代の作品で展覧会が開かれるとともに，帰国待望論が沸き起こり，その迎えにと，甥繁次郎の娘清原初枝がまだ16ながら単身で来訪し，そのままパレルモに同居，玉の変心を我慢強く待って，
国際連盟脱退1933＝72歳：*ついに半世紀ぶりに帰国。国民的スターとして一挙手一投足が報道され，帰国記念展覧会は満員となる。
_以後，日本最初の女流洋画家の名を確立し，作品を美術学校等に寄贈するなどする一方，パレルモに想いを遺しながら清原家に設けられたアトリエでなお絵を描き続けたが，

日中戦争始・1937＝77歳：
第二次大戦始1939＝78歳：_脳溢血で倒れ，没した。遺作展が開かれた。
ほぼ50年後初枝の手で遺骨がパレルモの夫の墓に戻された。

産経「日本人の足跡1」，「国際社会で活躍した日本人」，熊田忠雄「すごいぞ日本人！続・海を渡ったご先祖様たち」，「目でみる日本人物百科」，「日本の女性」，